

令和5年7月15日

第4回 野菜づくり講座

隠岐支庁農林水産局 農業振興部
隠岐地域振興第一課
松浦 有紀

本日の講義内容

キャベツの栽培ポイント
ダイコンの栽培ポイント

キャベツ栽培ポイント

キャベツについて

- ・ アブラナ科野菜（原産：ヨーロッパ）
 - ⇒ 冷涼な気候を好み、温度適応範囲は比較的広い
- ・ 耐暑、耐寒性
 - ⇒ 生育段階によって異なる
 - 生育初期には強いが、結球期に入ると弱くなる
 - ※特に結球後の葉は、低温に弱く、寒害を受けやすい
- ・ 湿害を受けやすい
 - ⇒ 耕土が深く、排水性、保水性が良い土壌が適する
 - 過湿状態は、根腐れの原因になる

キャベツについて

- ・ 生育適温

15～20℃

※5～28℃でほぼ支障なく生育するが、
28℃以上は、ほとんど生育せず病害虫に侵されやすくなる

- ・ 土壌 pH

6.0～7.0 （5.5以下では、生育が劣る）

○秋冬キャベツについて

★品種の選択

⇒ 栽培する時期に合った品種を選びましょう

※この時期に販売されている苗や種子を選べば失敗は少ない

★苗から作られる方

⇒ 育苗期間が高温期となり、病害虫の発生が多くなるため注意！

種まき時期： 7月～8月

定植時期： 7月下旬～9月中旬

収穫時期： 10月～3月

【参考】施肥設計例（1 m²あたり）

	肥料名	施用量
元肥	完熟堆肥	3 0 0 0 g
	苦土石灰	1 5 0 g
	B M 苦土重焼燐	1 0 g
	有機入化成特 A 8 0 1	2 0 0 g
追肥	燐硝安加里 S 6 0 4 目安：1回20g、3回	6 0 g

○肥料散布ポイント

堆肥（植付1ヶ月前）

苦土石灰（植付2週間前）

元肥（植付1週間前）

○耕耘時のポイント

十分に耕して、土の塊を砕き、石などの不純物を除去

※詳しくは、第1回講座資料

○苗づくり

- ①ポットまき : ポットに種をまく
②セルトレイまき : セルトレイに種をまく
③直まき : 畑の一角に場所を設けて種をまく



ポット



セルトレイ

<苗づくりのメリット>

- ・店に出回っていない品種の苗を育てられる
- ・定植本数が多いほどコストを抑えられる
- ・畑に直接撒いたときの鳥の食害を防げる
- ・良い苗を選んで植えることができる

など

○セルトレイまき

セルトレイ : 小型の鉢が連結した容器

- ・ 穴の大きさや数が異なる種類が選べる
例) 縦8×横16の128穴など
- ・ 一度に大量の苗を作りたいときに便利
- ・ 移植しやすい



<注意！>

- ・ 穴が小さいので、早めに植える
(根が回りすぎてから植えるとその後の生育に影響が出る)
- ・ 市販の育苗培土を使用 (清潔、軽い、養分が含まれている)

【キャベツのセルトレイ育苗の植え付け適期の目安】

- ・ 128穴セルトレイの場合、本葉3～3.5枚 (25～30日程度)
- ・ 苗の茎を持ってセルトレイから抜け始める頃

○苗づくり方法（セルトレイ）

○方法

①育苗容器に培土を詰める

※トレイの縁は、
土が入りにくいので丁寧に

②詰めたのち、容器を上から下へ軽く落とす（複数回）

③土が十分に詰まってないところに土を詰める

④水をかけて土を湿らせる

⑤穴をあけ、タネをまく

⑥土をかぶせる

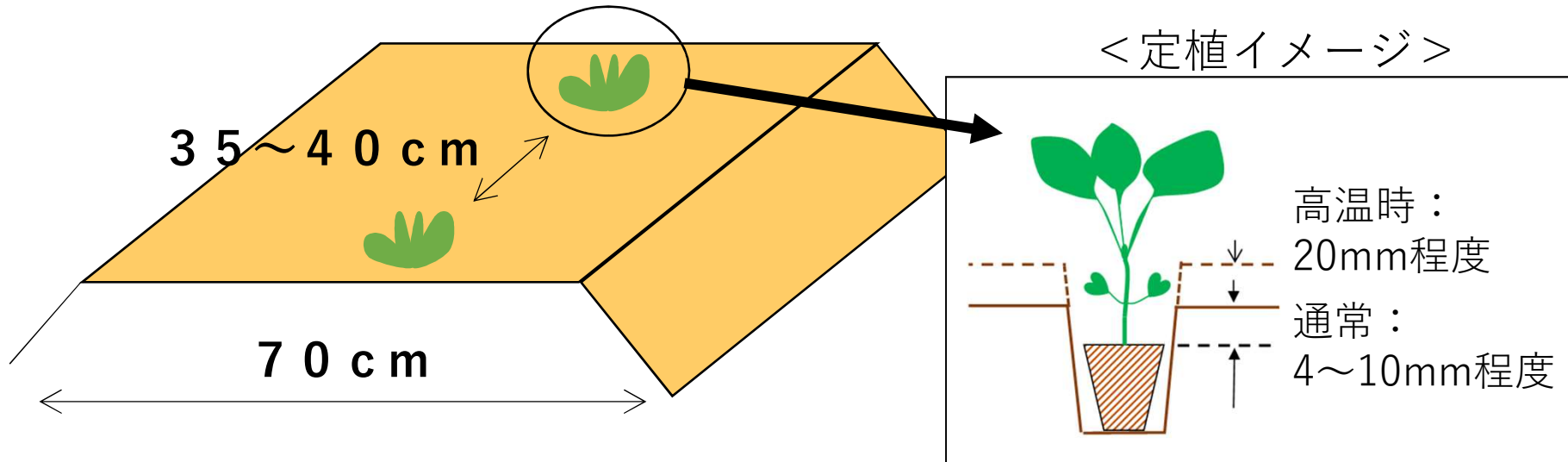
⑦新聞紙をかけ、再度水をまく

★ポイント

- ・発芽を確認したら、すみやかに新聞紙を取る
- ・取り外すのが遅くなると、茎が細く弱々しい苗になる！

○定植

例) 70 cmの畝に株間35~40 cmで1条植え
(2条植えは畝幅140 cmで条間40 cm)



★植え付けポイント★

- 植え付け深さは、根鉢が隠れる程度（4~10 mm程度）
※高温・乾燥期：20 mm程度の深植え（本葉1枚目の付け根まで）
- 定植後1週間は乾燥させないように注意する
乾燥程度をみながら、積極的に灌水！
- 雑草防止のためにマルチを使用してもよい

○追肥

<目安> 2～3回の追肥を実施 (燐硝安加里S604など)

- ・ 1回目：定植後、1週間後 (根の活着後)
- ・ 2回目：定植後、1か月目ごろ (結球が始まる頃)
- ・ 3回目：定植後、45日目ごろ (結球期：コブシ大頃)



活着期



結球開始前



結球期
(コブシ大頃)

○中耕（土寄せ）・除草

追肥のタイミングに合わせ、土の表面を軽く耕す（中耕）

⇒肥料の混和、除草や土壌の通気性改善につながる

※注意

表面を軽く耕すのは、本葉15枚程度頃まで
結球期以降は避ける（根の切断による傷み防止）

<中耕（ちゅうこう）とは？>

栽培中、雨などで表面が硬くなった畝を軽く耕すこと

【メリット】

- ・水や空気の通りが良くなる
- ・除草にもつながる

○収穫の目安

- 手で押さえて硬く締まったものから適宜、収穫
- 葉の柔らかい品種は、割れやすいので穫り遅れに注意する



○主な害虫

<秋冬どりキャベツ要注意!>

- ・ 生育初期
ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウ
- ・ 生育中～後期
コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ

<害虫対策>

気温が高い時期で虫が多く発生するため、
⇒ 定植後、防虫ネットの設置がオススメ

○主な害虫

コナガ （晩春～初夏、秋口に発生）

- ・ 被害
葉裏から円形または不規則な形に小さく葉肉だけを食害
- ・ 発生しやすい条件
乾燥が続く気象条件ではしばしば多発
低温を好む



幼虫



成虫

○主な害虫

ヨトウムシ （年2回の発生（春と秋ごろ））

- ・被害
ふ化幼虫の初期の被害は、葉の表皮を残してカスリ状になる
葉脈を残すだけの網目状になる
- ・発生しやすい条件
春から夏までの雨が少ない年には、秋以降多発
夏以降、初期防除ができなかった場合など、収穫期前に多発



成虫と卵塊



幼虫

○主な病害

黒腐病（細菌）

- ・ 症状
葉脈を中心として扇をひろげたような形の黄色の病斑
病斑は乾燥して破れやすい
- ・ 発生しやすい時期・条件
5～6月および9～10月に多発しやすい
- ・ 防除のポイント
結球開始ごろ予防散布、台風通過後の薬剤散布
害虫の防除を徹底（菌の侵入となる傷口を作らない）



初期の病徴



末期の症状

○代表的な生理障害

裂球（れっきゅう）

⇒ 外側の葉が割れる

- ・発生要因

過熟、収穫遅れ、過乾後の過湿などが原因

葉数、葉重の増加が盛んな時に発生 ※春～秋どりの作型が多い

- ・対策

早まきを避け、適期収穫する

収穫期の晴天後の降雨に注意する



<生理障害とは？>

環境的な要因によって生育に何らかの不具合が現れること

（要因）天候（温度や光）、土壌関連（水分や養分、酸度）など

※作期の拡大を図りたい方向け

キャベツのおもな作型

①春まき栽培

初夏どり：玉揃いは良いが、裂球が早いため収穫時期が短い

②夏まき栽培

秋冬どり：栽培期間が長く、病害虫も多い時期のため、要確認

③秋まき栽培

春どり：低温を経過後、春に収穫のためトウ立ち起きやすい

●：種まき、▲：植え付け、■：収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき	平坦部		●	▲		■						
	山間地		●	▲			■					
夏まき				●	▲							
		■					●	▲				
秋まき				■								
					■				●	▲		
						■			●	▲		

ダイコン栽培ポイント

ダイコンについて

- ・ アブラナ科野菜
 - ⇒ 冷涼な気候を好むが、発芽適温の範囲は広い
- ・ 耐暑、耐寒性
 - ⇒ 生育前期は、高温でも低温でも生育を妨げないが、生育中期以降は、適温幅が狭くなる
- ・ 畑の状態
 - ⇒ 根が非常に深く伸びるため、耕土が深く、排水性、保水性が良い土壌が適する
 - ※土が過湿になると湿害や腐敗が多くなる
 - 礫（れき）を好まない

ダイコンについて

- ・ 発芽への光条件
 - ⇒ 暗いところを好む（嫌光性種子）
 - 種まき後、種の2～3倍の厚さの土をかぶせる
 - ※種まきの詳細は、第3回講座資料参照
- ・ 生育適温
15～20℃（発芽適温 15～30℃）
- ・ 土壌pH
5.0～6.0

○秋まきダイコン

★土づくりと深耕をし、まっすぐな根をのばす

★ていねいに碎土・整地

⇒ ゴロゴロした土では、大きくなりにくい

播種時期：8月～9月

収穫時期：10月～12月

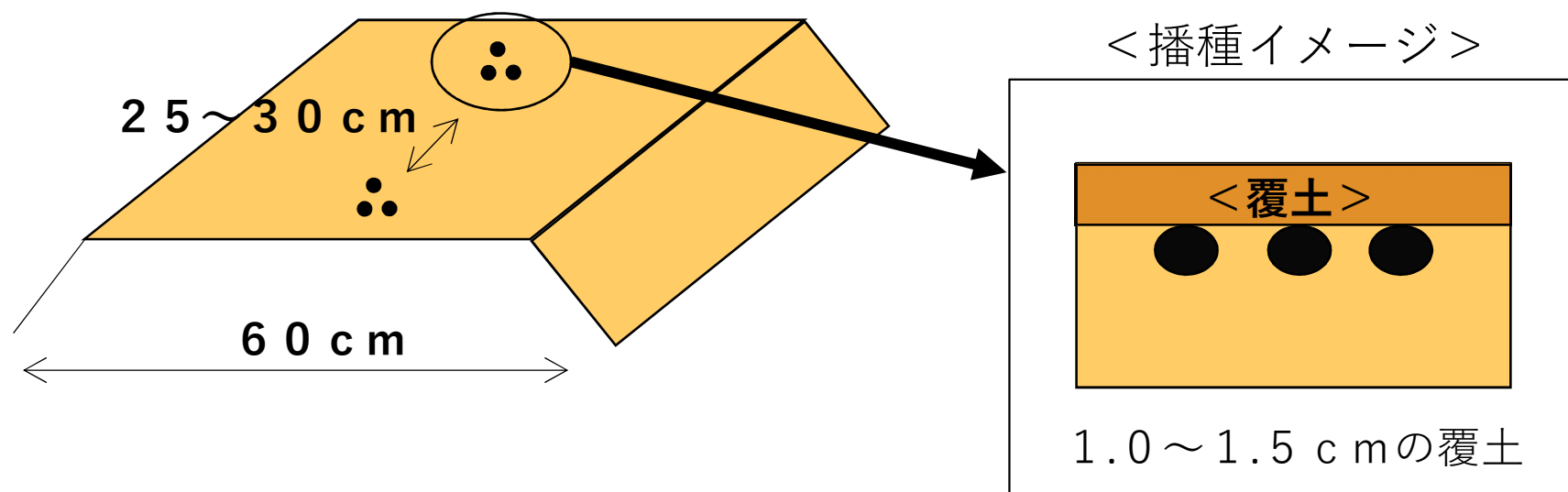
施肥設計例（1 m²当たり）

	肥料名	施用量
元肥	完熟堆肥	3 0 0 0 g
	苦土石灰	1 0 0 g
	B M 苦土重焼燐	3 0 g
	有機入化成特 A 8 0 1	1 5 0 g
追肥	燐硝安加里 S 6 0 4	2 0 g

○種まき

例) 60cmの畝に株間25~30cmで1条植え、点まき
(1穴3~4粒)

※9月まきで播種が遅くなった場合、株間30cm



★うまく発芽させるポイント★

- ・ 畝に水分を含ませた状態で種をまき、発芽まで乾燥させない!
- ・ 播種後、1.0~1.5cmの土をかぶせ、板などで軽く鎮圧

○間引き

<目安> **※丁寧に間引きを行うこと！**

- ・ 1回目：本葉2～3枚時に2本立ち（参考：左下①）
- ・ 2回目：本葉5～6枚時に1本立ち（参考：左下②）
遅くとも播種後、30日までに



<間引きとは？>

- ・ 株の生育に合わせて株を抜き取り、株間をあけていく作業
（生育不良なもの、形の悪いものなどを取って、整理）
- ・ 手で抜くほか、ハサミを使って切り取る

○追肥（間引き時期に合わせて実施）

<目安> 1～2回の追肥を実施（燐硝安加里S604など）

- ・ 1回目：株の周りか条間に浅い溝を切って、施用
- ・ 2回目：畝間に溝を切って施用（中耕・抑草効果）

< 1回目 >

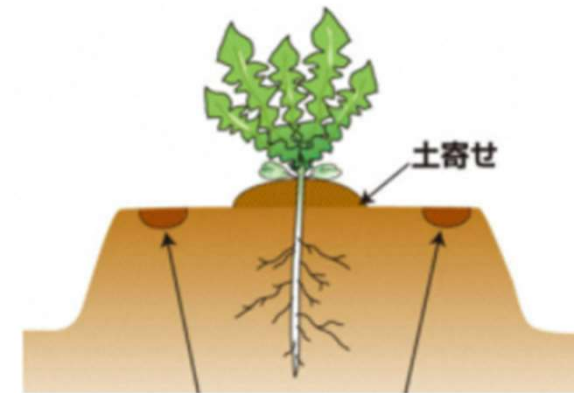


1. 肥料と土を軽く混ぜる



2. 株がぐらつかないように
株元に土寄せする

< 2回目 >



<イラスト：(左)サカタのタネ、(右)タキイHP>

○収穫の目安

- 根の直径が7 cm程度から収穫が可能
(生育が順調なら、播種後60日程度で収穫を迎える)
- 収穫する際は、根元を持ってゆっくり引き上げる
- 収穫が遅れると「ス入り」が多くなる
※肥大の早いものから順に収穫。取り遅れがないように！

「また根」になる原因は？

⇒ 根の生長点が傷むことで発生！



写真：農業技術体系 野菜編 第9巻

(原因)

- 障害物（土の塊、石、肥料など）によるもの
 - 乾燥などによる傷み
- など

○主な害虫

キスジノミハムシ

- ・被害
成虫・・・葉を食べる。直径約1mmの円形が出来る
幼虫・・・根を食べるため、商品価値が下がる
根の表面にクレーターのようにくぼみが出る
- ・発生しやすい条件
夏期から初秋に多い
夏場の高温乾燥状態では発生しやすい



<害虫対策>

- ・防虫ネットやシルバーマルチを張る
⇒ 成虫の飛来を防止

キャベツ、ダイコンのポイント（まとめ）

①適切な品種を選び、種まき時期を守りましょう！

- ⇒ 種袋の栽培例・作型例を確認
時期によってはトウ立ちしにくい品種（晩抽性品種）を選ぶ

②良い苗を確保し、苗が小さい時から葉を大切に！

- ⇒ 葉は植物体や結球部を形成するための栄養を作り出す
虫に食べられたりして無くなると、その後の生育に影響する
農薬散布や防虫ネットを張って対策を！

③結球野菜は結球するまでに、ガッシリとした植物体を作る！

- ⇒ しっかりした体ができると
光合成により植物が養分をたくさん作れる
※追肥を忘れないようにする

次回、野菜づくり講座

日にち：8月26日（土）

時間：9：00～10：00

場所：ミニリースハウス横の畑

※隠岐の島町役場駐車場（ガソリンスタンド側）に集合

キャベツ定植、ダイコン播種行います！